

## 「最新・樹木医の手引き」改訂 3 版 3 刷

### ●各論 第 3 章「樹木の生理」

記載の一部に誤りがありました。お詫びするとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

ページ	行	誤	正
123～124	123 ページ最終行から 124 ページ 1 行目	反応中心 (P680、P700) をもつ <b>光合成系 I</b> (PSI) および <b>光合成系 II</b> (PS II) が存在し	反応中心 (P680、P700) をもつ <b>光化学系 I</b> (PSI) および <b>光化学系 II</b> (PS II) が存在し
124	下から 7 行目	オキザロ酢酸は維管束鞘に運ばれ	オキザロ酢酸は、 <b>リンゴ酸</b> や <b>アスパラギン酸</b> に変えられて維管束鞘 <b>細胞</b> に運ばれ
137	下から 9 行目	長くなると <b>開花</b>	長くなると <b>花芽形成</b>

### ●各論 第 7 章「樹木と動物のかかわり」 第 3 節「松くい虫の診断と防除」 7 マツ材線虫病の発病機構 執筆者のご好意により、**P314 に 4)** として新たに以下を追加します。

#### 4) マツ材線虫病の感染発病メカニズム

線虫が健全なマツのシュート先端部からマツノマダラカミキリの後食によってマツ樹体内に侵入すると同時に上述した様々な生体防御反応が起きます。線虫は繁殖しながら根系に移動し、木部や根系の樹脂道を通って樹体全身に移動分散します。線虫が根系に移動して繁殖すると細根の伸長が停止します。また、自らの摂食と自らが分泌するセルラーゼによって根の細胞を破壊し、壊死させることによって根の養水分吸収機能を著しく低下させる結果、樹脂の滲出が停止し、前年葉が萎れてきます。そして木部の乾燥に伴い樹体全身に移動分散した線虫が爆発的に増殖し、形成層を著しく破壊するとともに不可逆的な水分ストレスによって通水機能が完全に停止して枯死に至ります。このような疫病がマツ材線虫病です。